

グループホーム えがお

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	職員が協同で、その人らしい暮らしの楽しみや生き方を支援する為の理念づくりを行った。(私たちの理念:入居者にえがお、スタッフもえがお、家族にもえがお えがおの連鎖)加えて、入居者の皆さんがとびっきりのえがおでお過ごしいただけるように、ケアの指針として「私たちの八つの約束」を作成し、職員と入居者、家族とともに、地域の中でその人らしく暮らし続ける支援の実践に努めている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	「私たちの理念」や「私たちの八つの約束」を施設内にわかりやすく掲示するとともに、毎日、朝礼時に唱和することで、理念の共有を促進させて一人一人の意識を高め、日々のケアサービスの中で実践に努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	「私たちの理念」や「私たちの八つの約束」は、わかりやすい文面で、観るだけでも理解されやすい内容となっている。施設内の目立った場所に複数掲示し、来所者の方に説明するなどして、理解してもらえよう努めている。		
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	区の常会に加入して、地域の各種活動等に参加して居り、区長をはじめ隣近所の方とは自然な交流が出来ている。また、ホームが犬の散歩コースになっており、朝夕の散歩時など気軽に声をかけ合っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	常会に加入し、地域の草取りや、掃除への積極的な参加をしている。また、地区主催の夏祭りなどにも入居者と参加させていただいている。		

グループホーム えがお

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	区長や老人会会長のお宅を定期的に訪問して、地域内の高齢者の方に役立つことがないかなどの話し合いを行ない、地域の状況に応じた取り組みが出来ないか考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を行なう中で、自己評価を通じて改善点を明確にしている。前回の評価を活かして、より質の高いグループホームの運営が出来る様に改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に開かれたホームを目指して、地域の方や入居者のご家族、有識者、行政の担当者等の参加をいただき、二ヶ月に一回程度の運営推進委員会を開催して、ホームの取り組みや意見交換を行なっている。委員会での意見等は日々のサービス向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険法の改正により、条文の解釈等に悩むことがあり、その都度、市町村や広域連合の窓口を尋ね、担当者に助言を求めて問題解決を図り、質の向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法務局から資料をいただき、職員全員での勉強会を行っている。入居者及び家族からの質問に対しては、適宜必要に応じて、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての説明を行っている。		現在の入居者の方には、制度を利用するような対象者はいないが、今後、必要に応じて対応出来るように、定期的な勉強会等で制度の実務上の学習や最新情報の習得を図っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症グループホーム権利擁護・虐待防止に関する啓発セミナーで使用した指針をもとに内部研修を実施し、虐待防止の認識を徹底周知させている。		

グループホーム えがお

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に際しては、入居者や家族の方の不安や疑問点などをお聞きして、十分な説明を行い、納得していただいた上で契約を交わしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内に意見箱を設置し、自由な意見、苦情等の把握に配慮するとともに「私たちの八つの約束」の中で職員一人一人が入居者との対話を約束し、入居者の意見をいつでも聞ける機会を設けている。また、入居者が何でも話せるような雰囲気づくりにも努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームでの暮らしぶりや行事等のお知らせ「えがお通信」を家族に郵送している。金銭管理は個別の出納帳を付け、定期的に家族に報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口を設置している。意見書箱を置いている。苦情等があった場合、職員に報告し対応策を話し合っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議などでは、職員一人一人の意見や提案が出しやすい雰囲気づくりに努め、日常の業務の中でも積極的な言葉がけを行い、職員の声に耳を傾けるようにしている。また、出された意見や提案については、出来るだけ反映させるようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>十分な職員を配置し、必要なミーティング、超勤等を行い、入居者の不自由のないよう勤務調整に努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者の環境の安定化のためにも職員の異動や離職は好ましくないと考えている。職員の定着管理を行なうことは勿論、日頃から、職員一人一人が入居者に積極的に関わり、職員の誰が関わっても同じように良い人間関係が出来ることが、人的環境変化からの入居者のダメージ軽減に繋がると考えている。</p>		

グループホーム えがお

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>採用にあたっては、福祉理念に対する仕事感、使命感を重視した職員採用をしており、年齢、性別制限はしていない。研修への参加、資格取得、自己向上を支援している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>人権に関する内部研修・勉強会を実施し、職員全員へ、人権・権利擁護など徹底して周知してもらっている。また、申し送り時等に、利用者の人権の尊重を促すよう話している。</p>		<p>今後も継続した、定期的な勉強会の実施。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は職員の質の向上、育成が不可欠であると理解し、積極的に外部研修に参加させている。また、内部研修も定期的実施し、職員の質の向上に努めている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者については、相互訪問や電話での意見交換等を通じて、相互にサービスの質を向上させる交流を行っている。また地域のグループホーム連絡協議会に立ち上げから参画し、横断的で密度の高いネットワークづくりへの取り組みをしている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>社会参加等出来るよう、休日の希望、夜勤の希望を出来る限り聞き、働きやすい環境づくりに配慮している。職員同士仲がよく、話を聞いてくれる仲間がいる。</p>		

グループホーム えがお

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の業務の中で、職員に役割を持ってもらい、各人が仕事を通じて成長できる機会づくりに配慮している。また、専門誌なども揃えたり、疑問点などについては、上司や先輩がすぐ答えるように努めている。外部研修など、希望する研修があれば積極的に参加させている。		
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居者からの訴えや希望を良く傾聴し、安心していただき、良い信頼関係が築けるよう努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	家族との話し合いの場を多く持ち、求めていることをよく聴いて、不安の解消に努め、安心していただけるよう支援している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームは、現在は満室であるが、電話等による相談や見学に対しては、相手の立場になって応じ、入居先がなく困っている方などについては他ホームや他のサービスも含め出来るだけの支援を行っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、何度か訪問し、顔なじみの関係を作り、安心していただいている。また、サービスの説明、家族の希望を十分話し合っ利用していただいている。		
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員(介護者)という立場にとらわれず、毎日の生活の中で、受容と共感を意識して、喜怒哀楽をともにし、より良い人間関係を築けるように努めている。		

グループホーム えがお

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に、入居者の日々の暮らしが解かるように近況報告をし、些細なことでも、家族とともに考えるよう心掛け、家族の方と一緒に支えていく関係作りに努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人や家族の個々の生活歴を大切にしつつ、現在の状態でのより良い関係づくりに配慮している。特に、認知症の現実を受け止められないご家族や認知症の進行に伴うご家族の苦悩に対して、理解や納得を得られるような助言その他の支援を心がけている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前暮らしていたアパートの大家さんや、近隣の方が様子を見に訪問され、関係は途切れていない。入居以前より利用されていた、美容院や商店等へ、現在も通っている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い友達ができ、良い人間関係が出来ている。テーブル配置も仲の良い方々を、同じテーブルに配慮している。そのため、助け合いの場面も見受けられる。		利用者同士の人間関係が悪化した場合の上手な支援(方法等)に努めたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院、関連施設への転居で退居となった方とも、継続的な関わりを持って、よい人間関係を保っている。(家族や利用者の相談に気軽に応じ対応している。)		
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのように暮らしていくことを望んでいるか、日々の対話で把握するよう努め、出来るだけ入居者の立場に立ち支援し入居者の行動や表情から思いを汲み取り支援している。		

グループホーム えがお

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人・家族から今までの生活歴について、聞き込みを行う。入居後も、入居者との対話の中から生活習慣などの、把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の状態把握(日々の状態と変化等)を職員間で十分に連携して行い、「できることやできないこと、していること」等、総合的な把握に努めている。		
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や家族等の意向に出来るだけ添うように、多方面からの視点でのプランづくりに努めている。また、ケアに携わる職員のやりがいや自信を深めるために、全体の意見交換の場を設け、それぞれの意見やアイデアを反映したプランづくりを行っている。		それぞれのご家族に、サービス担当者会議への参加を呼びかけ、介護計画に対するより深い理解や納得を求めています。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の日々の変化についての観察を行い、必要に応じてプランの見直しを行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、ケアプラン実施表、申し送りノートなどを参考にし、ケアミーティングを行い、情報を共有化しながらケア実践や介護計画の見直しに活かしている。		
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の方からの要望に応じて、出来るだけの対応(買い物、通院介助、外出支援等)を行っている。		

グループホーム えがお

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアの協力、地域の小学校、幼稚園などとの交流を積極的に行っている。 (演奏家、遊戯発表会、盆踊りのくどき等)		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前の担当ケアマネジャーやサービス事業者とは、入居後も接点を持ち、必要に応じて連絡を取っている。他のサービスとしては、介護保険では制約があるが、医療的なサービス提供などに関しては、訪問診療等、医師との支援を含めて取り組みを行なっている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ入居者の意向や必要性はない。		今後は、必要に応じて権利擁護等の長期的な取り組みについては、地域包括支援センターと協働していきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の状態の変化に応じて、その都度受診し、医師に診断していただき、支援している。入居者の通院介助はすべて、職員が行っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	訪問看護ステーションと医療連携を図り、必要に応じ専門医等への受診支援を行っている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置し、毎日のバイタル測定、入居者の病院受診等を行い、日常の健康管理を図っている。又、一人ひとり健康管理表を作成し、日々の服薬管理、受診状況を記録し、健康状態の把握に努めている。		

グループホーム えがお

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院先の担当医、家族、看護師が密に連絡を取り、早期退院出来る様に支援している。入院中の入居者の退院に向け、担当医、家族と連携を図り、外出という形で、ホームで過ごしたりした。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した時や終末期にどう対応するかは、協力医療機関医師、かかりつけ医、家族の方と話し合っている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>かかりつけ医、関係医療機関、訪問看護ステーションと連携し、休日・夜間等、緊急時における協力医療機関への電話対応、往診等の支援形態を整えている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えが必要になった場合は、それに関わる本人、家族、その他の関係者等と十分な情報交換や必要に応じて適時、話し合いを行い、本人や家族が安心して住み替えが出来るように支援している。また、必要に応じて、その後のフォローも行っている。</p>		
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>居室入室時のノック、声かけの徹底。言葉かけは入居者の自尊心・羞恥心に配慮している。個人情報については、守秘義務等のスタッフ教育をしており、個人情報の取り扱いには十分配慮している。</p>		

グループホーム えがお

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	可能な限り、本人の思いをが自然な形で反映できるような援助を心がけ、納得して現状を受け入れるように働きかけている。本人が楽しみながら日々の生活を送っていただけるように気を配っている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の「望まれる暮らし」に合わせた支援を基本としている。日々、その時々状況に合わせ、入居者ひとり一人の希望やペースを大切に支援を行っている。		
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者一人ひとりの希望にあわせて、それぞれ行きつけの理美容室の利用を支援している。新しい服を着たときなどは、さりげなく声かけし、身だしなみやおしゃれに関心を持ってるように努めている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のその時の状態等に考慮し、食事の準備や片付けなどできることを一緒に行っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	疾病等に配慮しながら、入居者一人一人の嗜好に可能な限り添うようにしている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人一人の排泄パターンを把握し、職員が注意して、気持ちよくトイレで排泄出来るように心がけている。また、可能な限り自立を促す支援を行っている。		

グループホーム えがお

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のその日の体調等に合わせて、気持ち良くゆっくり、ゆったり入浴出来るように気を配っている。また、必要に応じて、見守りや介助を行っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者のその日の体調等をよく観察して、不眠を訴える場合などは気持ちを落ち着かせるよう会話などで雰囲気づくりをし、自然に入眠出来るように支援している。		
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や出来る力を活かした楽しみごとの発見に努めて、適応できる役割や趣味を取り入れた支援を行っている。生け花の趣味のある人には、花を生ける手伝いをしてもらったり、洗濯の好きな人には洗濯の手伝いをしてもらったり、庭仕事の好きな人には一緒に野菜づくりをする等、一人一人に合った支援を行っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な入居者は、お金の所持等のすべてを自己管理してもらっている。管理が難しい方については、家族の方の了解の下、一定額をホームで管理し、収支報告を行っている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に添って定期的な散歩・ドライブ・買物等の外出支援を行っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣、花見、紅葉ドライブなど行事として取り組んでいる。又、家族の協力で、温泉旅行、映画鑑賞、観光旅行などされている入居者もいる。		

グループホーム えがお

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望があればいつでも使用できるように支援している。家族の方からの電話が少ない入居者については、職員が入居者の意思確認を行い、こちらから電話することもある。手紙は、必要に応じて代筆など行っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただけるように、訪問については開放的に対応している。(夜間についても、同様に対応)「私たちの理念」である明るい笑顔で対応し、気持ち良くお過ごしいただけるような対応に努めている。		
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束を行わない介護」を職員全員が認識しており、身体拘束のないケアを実践している。今までに拘束の事例はありません。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしが大切と考え、日中玄関は鍵をかけず、開放的にしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に配慮している。個々の状況に合わせ十分な見守りを行い安全に過ごせるようにしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共同生活の場には危険物は置いていない。個々の居室内も危険のないよう家具や置物の設置等に配慮している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止には常に注意を払っている。転倒等の事故が起きた時は全員で話し合いを持ち再発防止に努めている。リスクマネジメントについての勉強会なども検討している。		

グループホーム えがお

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練は行なっていないが、マニュアルは用意している。職員は、日々の勤務の中で急変等の発生時には、マニュアルに基づいて行動している。		マニュアルを用意しているが、最終的な対応は職員個人に任せている状況なので、マニュアルに基づいた定期的な訓練や学習会などで知識の定着を図っていく。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を選任し、消防署の協力で定期的な避難訓練を行っている。災害時のマニュアルや連絡網も完備している。区長と連携して地域の方々への協力をお願いしている。		これまで通り日常的な職員に対する意識付けや、隣組等の地域協力を得られるような働きかけを行っていく。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時や入居後も家族等にリスクについての説明は行っている。特に、変化が予測される入居者については、家族とその都度連絡などを密に行い、リスクを未然に回避できるよう注意して支援を行っている。		
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師・介護職員等が毎日バイタルチェックを行い、日々の情報を共有している。急変、異変時には速やかに主治医に報告し、医師の指示があれば受診している。また、随時、必要な状況説明を家族に報告している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬管理を行なっている。薬の目的や用法等については申し送りノートを活用し、必要時には看護師より適宜、説明を受け確認しあっている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	スムーズな排便を促す為にも、毎朝のラジオ体操(運動)の声かけ、参加の誘導を行なっている。また適時、適量の水分補給に心がけ、取り組んでいる。		

グループホーム えがお

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後にうがい、歯磨きの声かけを行ない出来ない入居者には介助を行っている。就寝前には入れ歯の消毒を毎日実施し口腔内の清潔に気を付けている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録表に日々の摂取量を記載し、把握をしている。入居者の状態に応じて、献立を工夫している。(好みの献立を食べていただける様に、希望される場合は別の献立を提供している。)また、嗜好や栄養のバランスにも配慮している。夜間を含め定期的な水分補給を行っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを作成している。流行時には、予防対策の話し合いを行っている。(インフルエンザは家族、本人の同意を得て、予防摂取している。)ホーム内には、手作りの予防対策ポスターを掲示して入居者に、解かる様にしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材専門業者の栄養士が献立を立て、カロリー計算や栄養バランスに配慮した新鮮食材が使用されている。ホームの栄養士は、台所、調理器具等の衛生管理を行い、食中毒の予防も含めた安全管理に努めている。		
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、植木を植え、玄関には花瓶に花を生けている。表札も木造りで、ホームの名前をひらがなでやさしく表している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造りの温かみのある空間づくりを意図している。天井を高くとり、吹き抜けなどの工夫によって開放的でゆったりとした空間となっている。入居者が思い思いに過ごせるように、椅子やソファの配置に気を配っている。居間からの見晴らしも良く、庭の木々や花々に季節を感じられるように、木々等の配置にも工夫をしている。		

グループホーム えがお

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下の途中にソファを置き、くつろげる空間作りをしている。思い思いにテレビを観たり、仲の良いかたと談話されたりしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、出来るだけ使い慣れた家具等をお持ちいただくようお願いしている。本人のなじみの家具を持ち込んだり、家族の写真を飾ったりすることで、居心地よい本人らしい居室空間での生活が送れると考えている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	その日の天候や温度を考慮し、こまめに温度調節を行い、入居者が過ごしやすいように、配慮している。		
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差をなくし、移動の動線に添って手摺りを設置している。また、お風呂場も含めエアコンを設置し、室内の温度管理にも気を配っている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室には写真つきの表示を行っている。入居者の部屋には手作りの表札をかけ、好みに応じて風景の写真を飾るなどして、混乱を招かないような環境づくりに努めている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの前方は緑のオープンスペースが広がり、車の通行が少ない環境のため、入居者が安心して散歩などを行っている。庭には菜園もあり、入居者が野菜づくりなどを行っている。また、裏の縁側とを利用し、屋外でのバーベキューパーティなど野外活動を楽しんでいる。		

グループホーム えがお


. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム えがお

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

【私たちの理念】入居者にえがお、スタッフもえがお、家族にもえがお。 えがおの連鎖
 私たちは、「私たちの理念」に従って、えがお  いっぱいのグループホームを目指します。